

平成26年第3回教育委員会会議  
報告事項（4）

義務教育課

1 報告事項 沖縄県学力向上推進本部会議提言  
～「わかる授業」を中核に、学力向上に係るP D C Aを充実～

2 事項の説明

教育指導統括監、各課長（6）、教育センター所長、各教育事務所長（6）で構成される沖縄県学力向上推進本部会議において、各学校における学力向上推進（P D C A）の充実に向けて、本年度3回にわたる協議を重ね、以下のとおり改善策について提言案を取りまとめた。

○提言事項

**（1）年度末から春休みに当該年度の学習の定着を図る**

- ①年度末の期間、朝の活動時間を補習指導に充てる。
- ②定着の不十分な児童生徒に対して、春休みに個別指導を行う。
- ③春休みには既習内容を復習するよう宿題等を与えるとともに、新年度当初に確実に点検するなど、習得の徹底を図る。
- ④全国学力・学習状況調査や県学力到達度調査の過去問題を活用して復習を行う。特にB問題は授業の中で理解させるようにする。
- ⑤小学校における持ち上がり担任制について積極的に推進し、年度末から新年度の指導の充実を図る。

**（2）次年度の教育課程の見直しで学力向上の取組を徹底する**

- ①長年の慣習にとらわれることのないよう、校長のリーダーシップの下、学校行事や年間指導計画等、教育課程の見直しを行う。
- ②行事をスリム化し、1～3月を学力向上の強化期間とする。
- ③家庭訪問の時期を見直し、4月は学級作りや学習規律の徹底を図る。
- ④中学校において、定期テストの間に実力テスト（確認テスト等）を全学年で実施し、既習事項の定着を徹底する。

**（3）実態を踏まえた取組を上半期から全校体制で実践する**

- ①4月の全国調査をCheck・Actionの機会とし、各学校で自校採点・分析を実施する。
- ②全国調査の結果・分析を踏まえ、下学年の年間計画に位置付け、授業改善に役立てる。
- ③児童生徒の学力の実態を保護者へ説明し、家庭学習の徹底について協力を得る。
- ④学力向上W E Bシステムを活用し、学習内容の定着を図る。

**（4）学業と部活動のメリハリをきちんとつける**

- ①小中ともに、部活動と学習に集中する時間をはっきりさせ、児童生徒自ら実行できるよう指導する。（終了時刻の厳守と帰宅指導の徹底）
- ②家庭の日などの休養日や定期テスト前の部活動停止期間（1週間）の厳守を徹底する。
- ③各種スポーツ大会への出場を精選し、土日の家庭学習の時間を確保する。
- ④春休み・夏休みの午前に学習の時間を確保し、その後に部活動を行うようにする。

**（5）行政機関の学校支援の充実を図る**

- ①学校訪問は、教師個々の授業改善を趣旨とし、計画的・積極的に実施する。
- ②成果を上げた学校の具体的な取組の波及に努める。
- ③校務改善検討委員会からの提言を踏まえ、学校が参加する各種行事を見直す。

○依頼文書：平成26年1月31日に、市町村教育委員会等へ協力依頼文書を発送した。